

# 大和平野東部活性化計画による農村周遊散策道整備とイベント開催について

北部農林振興事務所 農村地域振興課 小尾 泰輝

## 1. はじめに

奈良県北西部に位置する大和平野東部地域は、弥生時代より稲作が営まれており、条里制の水田区画や多くのため池が分布する農業地帯である。また、初期の大和朝廷が置かれた日本の歴史文化発祥の地でもあり、弥生・古墳・飛鳥時代の史跡や古墳・寺社仏閣が現存する。地区内に鉄道や高速道路も整備されており、大阪・京都等の大都市から来訪者がアクセスしやすい環境にある。

しかしながら、小規模農家が多い点、柿やイチゴ等を除くと全国的に知名度が低く、市場競争力が弱い状況にある。これに対し、当該地域が持つ魅力を発信していくとともに、地域資源を活用した収穫体験等により、多くの人々を呼び込む取り組みが必要となっている。

そこで、既存の散策道および自転車道と連携し、多くの来訪者を大和平野東部の農村部に呼び込むため、「農村周遊散策道」を整備する大和平野東部活性化計画を農林部にて作成した。該当地域内の農村景観、直売所等の農業関連施設を訪れるとともに、現存する歴史的建造物の散策を楽しめるように、散策道の設定、および一部区間において道路改修を実施した。また、散策道を利用し、農業や観光に係る官・民の関係者が連携したプレイベントを開催し、都市農村交流を進めることができた。本研究において、都市および農村交流による農村振興を目的とした農村周遊散策道整備と、地域の方々と共催したプレイベントについて述べるとともに、今後の散策道活用およびイベントについて課題を挙げていく。



図1.農村周遊散策道の整備構想

## 2. 既存の自転車道の利用とワークショップによる農村周遊散策道のルート設定

大和平野東部において、農業施設および史跡や寺社仏閣などの歴史的建造物を含む観光施設が存在する一方で、これらは市町村をまたいで点在するため、観光施設を繋ぐ広域での周遊観光の整備が課題である。そこで、県内にある私鉄やJRの主要駅にてレンタサイクル店が整備されていること等から、図1に示すように、天理駅、近鉄田原本駅、桜井駅を拠点としたルートを想定した。想定したルートにて、主要駅と既存の農業施設および観光施設をつなぎ、各史跡および施設を訪れられるようにした。また、観光資源が集中する明日香村周辺へ訪れる動線を桜井駅から設けるとともに、既存の「ならクル」および京奈和自転車道とのアクセスも考慮した。

想定したルートに基づき、より実現性を高めるため、農村周遊散策道上にある天理市、橿原市、桜井市、田原本町、明日香村の職員とともにワークショップを開催した。ワークショップ時の様子を写真1に示す。各市町村の担当職員より得られた意見により、各市町村独自で設定する自転車道および散策道と連携するとともに、ルート本線と農産物直売所や寺社仏閣などの地域資源を繋ぐサブルートを設定した。

以上の点を踏まえ、図2に示すように、農村周遊散策道を作成した。これにより、県内の各鉄道駅と農産物直売所や体験農園および多数の史跡や寺社仏閣を繋ぐとともに、県で設定している既存の自転車ルート「ならクル」や京奈和自転車道に加え、各市町村から得られた意見を参考に、既設および整備予定の自転車ルートとの連携を考慮した散策道が作成されている。

### 3. 舗装整備と休憩施設の整備

農村周遊散策道の整備に当たり、用地買収が伴う整備はその労力を勘案すると、多大な時間および費用を要し現実的でない。また、県内に「ならクル」として既存道路を自転車利用するための標識が整備済みであり、連携が利用者の利便性においても有効である。一方で、農村周遊散策道における観光施設の散策を考慮すると、要所に来訪者の休憩施設が必要と判断した。以上の点から、設定した農村周遊散策道上のうち、天理市、桜井市および明日香村で、必要と判断した区間にて舗装整備を計画するとともに、休憩施設を整備することとした。

道路および休憩施設の整備を行う上で、春・夏の工事施工は地域の営農に支障を来すと考えられたため、通年での工事期間を設定せず、複数年度に分けて整備を進めた。着手に関して、収穫期後の12月から始めると想定し、地元役員を対象とした工事内容の事前説明を行うとともに、地元役員を通じ、近隣住民に対する工事に関する回覧を配布した。また、施工する区間に関して、地域の方々が普段利用する生活道路でもあることに配慮し、各市町村担当者と事前に調整し、安全な通行が出来るように、回覧および迂回路を示すことで地域への周知を図った。また、工事期間中に地域の方々が通行する際には、施工業者との打合せにより、作業の一時中断など安全対策にも取り組んだ。

整備後の道路および休憩施設を写真2(a)～(d)に示す。休憩施設内に設置するパーゴラやベンチに関し、耐久性や周辺との景観を総合的に評価し、アルミや鉄素材と奈良県産材



写真1.市町村担当者との  
ワークショップの様子



図2.農村周遊散策道の全体図



(a)天理市内の休憩施設



(b)天理市内の舗装整備区間



(c)桜井市内の休憩施設



(d)桜井市内の舗装整備区間

写真2.休憩施設および舗装整備区間

を組み合わせた施設を設置することとした。また、利用者が景観を楽しめる眺望スポットとして利用できるように配慮した。道路整備に関し、天理市内の舗装道路について、散策および自転車利用者の安全面を考慮し、道路の付属施設として待避所を設置した。

#### 4. 散策道を利用したイベントの開催

農村周遊散策道の整備を進めると同時に、「なら歴史芸術文化村」の開村に合わせ、都市農村交流の促進や地域産業の振興等による賑わいの創出を図るため、周辺地域と連携した賑わいづくりの開発・実践活動を計画した。また、「食」と「農」の魅力情報発信などに取り組むアグリツーリズム事業の展開を図った。実践の1つとして、今後の開村に向け、アグリツーリズム展開の実践活動の検証評価や質的な向上となるアイデアをとりまとめ、次年度以降のイベントの実施計画案の作成につなげるために、農村周遊散策道の走行体験を兼ね地域の景観を楽しみ、寺社を巡るとともに、地元営農組合と協力し、農作業体験や来訪者と地域の方々との交流を目的とするプレイベントを実施した。

プレイベントの開催にあたり、図2の農村周遊散策道のうち、JR 桜井駅から柳本駅西側に位置する天理市檜垣町までを結ぶ区間を利用するとともに、周辺にある寺社や古墳を巡るコースを設定した。また、主に自転車での移動となるため、体力面および安全面を考



慮し、参加資格を中学生以上に限定した。

写真3にイベント時の様子を示す。アグリツーリズム展開の1つとして、地域の方々の協力の下、天理市檜垣町内での収穫体験、地域で収穫された食材を用いた食事の提供および農産物直売所の設置を行った。プレイベントの参加者の年齢構成グラフを図3に示す。20代および60代以上に参加者が集中しており、30代から40代が比較的少ない。小学生以下の年代が対象外となり、30代から40代の親世代が参加を控えたためと考えられる。また、選択式の回答による「興味ある体験・参加したいプログラム」のアンケート結果を見ると、こんにゃくづくり、味噌づくりが多く、全体意見の内、約71%を占めた。これらは普段の生活になじみのある食材であるものの、日常において、実際の作業工程を見る機会および体験する機会が極めて少ないためと考えられる。また、しめ縄づくりや農作業体験などの伝統的な行事についても行いたい意識があると考えられる。都市部の生活にて得がたい、農村地域独自の体験イベントを立案すると同時に、幅広い世代が参加し、営農や農村振興に関心を得られるイベントの実施が今後望まれる。

## 5. 終わりに

本研究にて、農村振興を目的とした農村周遊散策道整備と、地域の方々と共催したプレイベントについて述べた。市町村担当者とのワークショップや地域の方々のご協力による散策道の整備、および散策道を利用したプレイベントにより、官・民ともに農村周遊散策道に対する一定の理解を得られたと考えられる。一方で、プレイベントに関し、安全面・体力面を考慮したため、参加者を限定した開催となった。より多くの方々に営農や農村振興に関心を得られるようにするため、幅広い世代が参加できるイベント等の賑わいづくりを、地域の住民が主体となっていかに立案・実施していくかが今後の課題と考えられる。

最後に、本事業の計画・設計・施工に多大なる尽力を頂いた方々、並びに事業にご理解・ご協力を頂いた地元の皆様方に、この場を借りて深く御礼申し上げます。



写真3.プレイベント時の収穫体験

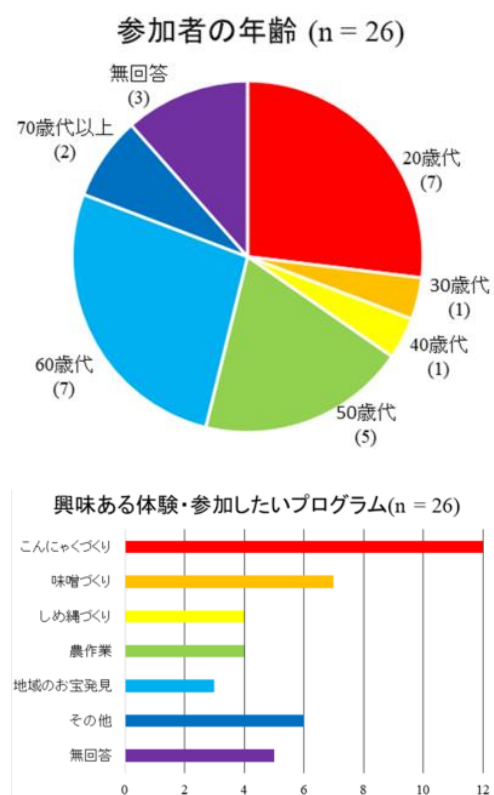


図3.プレイベント参加者のアンケート集計結果